

電機連合福島地協 様

## 2015 地方自治体選挙総決起集会メッセージ

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年は福島県知事選をはじめ、南相馬市議選や川俣町長選、そして突然の解散総選挙など、電機福島地協の皆様には大変なご支援をいただき、選挙結果以上に多くの成果が得られましたこと心から感謝を申し上げます。

今年は、4年に一度の統一地方選挙が行われますが、これまでの選挙とは異なる状況の変化を認識しなければなりません。その理由として、一つには、国が定める5年間の復興集中期間に対し、残すところ1年となったことは、今後1年間の各自治体の取り組みが極めて重要なものになることです。二つには、地方分権における道州制の問題ですが、その前提になるのが地方創生の取り組みです。昨年夏、日本の少子高齢化の加速とともに、今後の人口動態によっては896の地方自治体が消滅するという推測値が発表されていますが、福島県は12万人の避難者を抱え、さらに人口流出が加速しているだけに、今後の自治体再生と街づくりが重要課題となってきました。三つには、自治体間競争の時代を迎え、国際的に言えば「オリンピック誘致」、国内で言えば「ゆるぎやら」「B-1グランプリ」「ご当地ナンバー」など、自治体の特徴を活かしたPR合戦であり、最終的には自治体のブランド化が生き残りの生命線と考えられます。

以上のことから、今回の統一地方選は従来とは異なることが理解できると思えます。今から12年前、粕谷議員の最初の選挙に携わった時、今後の課題として強く感じたことは、「議員の資質と有権者の見識」でした。議員の資質とは「議員に相応しい人かどうか」で、有権者の見識とは「議員の資質を見抜く力」のことです。12年が経過した今、このことが全国の様々な場面で問われているのではないのでしょうか。粕谷議員は、年齢的にもキャリア的にも円熟期を迎えており、今後の議会の中心的な存在として活躍を願うところであり、佐野議員は女性議員の貴重な立場から、いよいよ本領を発揮する時期に来ていると思えます。是非とも、電機福島地協のご支援をいただき、議会での活躍に期待したいと思います。

2015年1月17日 連合福島 会長 今泉 裕